

## 自然エネルギーの先進地

### 環境モデル都市に取り組む飯田市

長野県飯田市は、自然エネルギーへの取り組みの先進地として知られています。10月に党鈴鹿・亀山市議団で視察に出かけ、勉強してきました。

飯田市は温室効果ガス削減目標を「2030年に40～50%、2050年に70%」と宣言し、「おひさま」と「もり」のエネルギーを総合的に利用する取り組みを進めています。

年間日照時間が多い飯田市は、その「おひさま」パワーを最大限活用しようと、市として太陽光発電を推進し、個人宅への設置補助制度とともに、市民ファンドによる「市民共同発電所」を保育園や公共施設の屋根につくって、現在38ヶ所となっています。また住宅への設置も、取り付け時の個人負担ゼロ、毎月の電気代として定額料金を払っていけば、10年目には自分のものになるし、その間も余った電力を中電に売れるという「おひさまゼロ円システム」という方法で普及しています。

町外れの山の上にある「メガソーラーいいだ」も見学しました。中部電力と市との共同事業で、太陽光パネル4704枚を並べ、年間100万キロワット（一般家庭300世帯分）を発電します。

「南信バイオマス共同組合」は豊富な「もり」の木から、地元産間伐材を使った木質バイオマスのペレットを製造、小中学校にペレットストーブを設置、一般家庭や事業所にも設置を進めています。また、小水力発電も市民共同発電所として検討中です。エネルギーの地産地消を進めれば、地域の一大産業になり、雇用や経済活性化にもつながることが分かりました。



メガソーラーいいだ現地で

# 三重県が来年9月から、子ども医療費助成を「小学生まで」に引き上げ

三重県は10月末、これまで「就学前まで」だった子ども医療費への助成事業の対象を、来年9月から「小学校卒業まで」に引き上げる方針を公表しました。鈴木英敬知事の選挙公約を具体化するもので、子どもをもつ家庭には朗報です。

## 鈴鹿市は「中学生まで」引き上げることができる

これで三重県中の子どもが、小学校まで医療費負担が軽くなりますが、すでに多くの市町が実施していたのを、県が後追いした形です。亀山市など「中学生まで」無料化している所は、財政的には助かりますが、市民にとっては変わりはありません。

さて鈴鹿市はどうするか？末松市長は、来年4月から小学生までの無料化を表明し、9月議会で条例改正を議決しました。この鈴鹿市の独自制度は、わずか半年で「独自」ではなくなります。

私は条例の審議の中で、「県の制度改正があれば、鈴鹿市としては年1億2千万円の『余裕』が生まれるので、これを中学生までの引き上げに回すべきだ」と主張しました。小学生までの子ども医療費無料化に必要な年間予算は約4億円、その内、小学生分は約2億4千万円です。これが県制度になれば、市の負担は2分の1となるので、1億2千万円が助かることとなります。ちょうど、中学生にまで無料化を引き上げるのに必要な費用が、1億2千万円です。「県の助成がなくてもやる」と決めていた、市独自の制度のための予算ですから、ほかに回さず、さらなる充実に使うというのがスジではないでしょうか。

---

## 鈴鹿市後援会の恒例バス旅行に行きませんか

とき 11月27日（日）  
行先 滋賀県長浜市・黒壁スクエア、  
福井県敦賀市・敦賀原子力館など  
参加費 5000円（昼食込） 子ども3000円  
申し込み、問い合わせは市議団・石田・森川まで

## 他市で相次ぐ入札不正事件、鈴鹿は？

桑名市、津市で「入札妨害事件」が発覚し、担当職員や業者が逮捕される事件となっています。各種工事の予定価格や最低制限価格が「秘密」になっているため、それを何とか聞き出そうとして市長の後援者や業者が担当職員に圧力をかけた、というパターンです。

鈴鹿市では、入札改革によって予定価格や最低制限価格を「事前公表」としているため、わざわざ聞き出す必要がありません。したがって、桑名市のような事件は起こりません。これはいいことなのですが、困った問題も出てきています。入札参加業者が全員、「最低価格」で入れるのです。

今年10月分の工事入札の結果を見ると、24件のうち22件が最低価格での落札で、参加業者の「抽選」によって落札業者が決まったのです。これでは業者の営業努力とか工事実績に関係なく、「くじ運」のみによって工事が取れることとなります。これも問題だと思います。

---

## ふるさとの山に登って下界を眺める



入道ガ岳から見た御在所岳・鎌ガ岳

秋まっ盛りの10月に、御在所岳、入道ガ岳に登りました。今年の夏はスケジュールや体調の都合で、信州の山に行けませんでした。涼しくなったのでやっと鈴鹿の山に行く気になりました。

御在所岳は中道コースから上がって、裏道コースを下りましたが、ロープウェイの下の尾根道を歩く中道からの眺めはいつ見てもすばらしいです。

入道ガ岳は井戸谷コースから上がり、頂上から奥の宮を回って北尾根コースから下りました。下界の景色もいいですが、ここから北の御在所方面、南の野登山方面の山々を眺めるのもいいものです。

去年あたりから「山ガール」、若い女性の姿がひじょうに多くなってきて、山がにぎやかになってきたこともうれしいことです。観光も「地産地消」、自分たちのふるさとのいい所をもっと知ることが大事だと感じます。

ふるさとの山にむかいて言うことなし ふるさとの山はありがたきかな（啄木）  
見上げてごらん あの山を 山につづく深い空を（笠木透）

ずいそう



## 映画「ステキな金縛り」

三谷幸喜監督のコメディ映画「ステキな金縛り」は、封切前から話題にのぼっていたが、やっぱり面白かった。妻殺しの容疑で捕らえられた男のアリバイを裁判所で証明していくドラマなのだが、その証人が400年も前の落ち武者の亡霊という、現実にはあり得ない設定になっている。その落ち武者とドジな弁護士を軸に、裁判所の法廷が劇場のようになって、面白く盛り上がっていく。

この物語の筋書き自体が、荒唐無稽で面白いのだが、もっと面白いのは、当代一のそうそうたる役者の皆さんが、それぞれ一生懸命にまじめにヘンな役を演じていることである。出演者みんなで、どうしたらもっと面白くできるか、工夫しながら楽しみながら映画を作っている、という感じである。

西田敏行の肥満体の落ち武者、ドジばかりで司法試験にどうして合格したのか不可解な深津絵里の弁護士、法廷でデタラメな証言に身を乗り出して聞き入る、好奇心旺盛な小林隆の裁判長、冷静沈着なのに愛犬が死んで落ち込んでいる検事の中井貴一、などヘンな登場人物ばかりである。さらにチョイ役でも一癖ある、怪しい宿の女将の戸田恵子、売れない役者の佐藤浩市、偏屈な歴史学者の浅野忠信などの役柄も楽しい。

### 現実を忘れて、面白い話でリフレッシュできる

三谷監督の映画は、観客に楽しんでもらうために徹底的に趣向をこらす、その努力を惜しまないところがいい。故伊丹十三の映画や、故井上ひさしの芝居も、同じようにいろんな趣向があって楽しかった。現代の問題点に正面から迫るリアリズムの芝居とともに、ばかばかしい喜劇で大笑いすることも、どちらも人には必要だと思う。

とくに、いまの現実、大地震と津波災害、原発事故、増税、TPP、円高など、課題山積で、なかなか希望が見出せない閉塞感のなか、我々は生きていかねばならない。問題はすぐに解決しなくても、なんとか頑張っていけるエネルギーを、どこかからもらうことが必要だ。そんな時、楽しい映画や芝居、歌や芸術は、硬く煮詰まった頭や心を柔らかくして、リフレッシュさせてくれる、大事な栄養素だ。